

災害時におけるスマホ活用と人のつながり ～地域SNSの可能性

川畑 夏野

【要 旨】

本稿は、日常生活には欠かせないものであり、情報発信や情報収集に役立つスマートフォンを利用した災害時の問題解決を目的としたものである。

まず、過去に起きた災害を振り返り、個人の通信手段と災害によって起きた問題について述べる。続いて災害時に活躍するスマートフォンの機能とサービスについて述べ、災害時の有用性を考える。次に東日本大震災を経験した被災者にインタビューという形で直接話を伺い、防災意識の変化や困ったことなどを調査し、課題解決の模索に充てる。そして、地域住民とつながる地域SNSを活用した災害時の共助の促進について考え、地域SNSを取り入れている自治体にインタビューを実施し、提案の有効性について述べる。

【講 評】

自然災害の多発する日本では、災害時におけるSNSの重要性について関心が高まっている。本論文はそうした社会的なニーズを踏まえ、災害時におけるスマホ活用と人のつながりについて調査した貴重な論文である。東日本大震災においてSNSの重要性が認識されたことはよく知られており、災害発生時のみならず、その後の避難所での生活等においても人と人のつながり、交流を媒介する手段としてSNSの果たす役割は非常に大きい。本論文では、東日本大震災の被災地や渋谷区でインタビュー調査を行い、災害時におけるスマホ活用と人のつながりについての意識調査を行っている。また、そうした調査に基づき「地域SNS」という考え方を提唱している。実態調査を行い、それに基づき新しい考え方を提唱している点において、本論文は卒業論文としての高い水準を有していると判断される。